

美郷を知る

広報担当の杉山陽子です。
美郷町のこと。知っていること。知らないこと。
日々の生活でみなさんにもっと伝えたいこ
とをテーマに美郷町のことを今月号か
らシリーズ化でお伝えしていきます。



今回のテーマは

ぼうさいきょてんせいびじぎょう
「防災拠点整備事業」と

そら えきこうそう
「空の駅構想」の
2つの事業について聞いてみました。

▼「防災拠点整備事業」を知る

漢字が多く、「防災拠点」という言葉も聞きなれない言葉だと思います。どういう事業で、何が整備されたのか。いろいろと聞いてみました。

Q: 「防災拠点整備事業」ってなに？

A: 停電に備え、災害に強い避難所をつくるための事業です。

この事業で停電になっても3日分の電気を確保することが可能となりました。ひとたび大きな災害が発生すると、避難所へ避難しなければならないことがあります。そのとき、長期の孤立化にも耐えることが出来るよう、非常用電源として活用できる太陽光パネルと蓄電池設備を防災公園や町内の指定避難所など計10か所に整備しました。

(関連ページ P4)

Q: 設置費用はどれくらい？

A: 全体の事業費は約11億7千4百万円です。うち、町の負担は約15% (1億7千7百万円)に抑えられています。

費用は7億8千1百万円が国の補助金で、残りは有利な借入金と、町の手出しのお金でまかっています。

事業費 1,174百万円

内訳	国の補助金 ※1	781百万円
	※1 環境省「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」	
	国の負担(有利な借入金)	216百万円
	町の負担	177百万円

さらにこの事業により、町の施設の電気料金を大幅に削減することができます。また、余った電力を売電して収入を得ることを検討しています。これらにより、町が負担する実質的な額は大幅に減少する見込みです。

Q: 太陽光パネルが選ばれた理由は？

A: 地球温暖化対策とコストダウンになるからです。

太陽光パネルはCO₂を排出しない発電方法です。温暖化対策として、導入しました。

役場本庁舎や各交流センターの太陽光パネルで発電した電気は、普段、それぞれの施設で使用することで、電気代の削減にもつながっています。



総務課 浜田敏喜 主任





▲防災拠点整備事業で設置した太陽光パネル(旧邑智中学生寮付近)



▲ドローンの実証実験

▼「空の駅構想」について知る

「空の駅構想」という言葉を聞いたことがありますか？この言葉を聞いた時、私は最初、「空の上に駅ができるのかな？」とっていました。そんな「空の駅構想」について、聞いてみました。

Q: 「空の駅構想」ってなに？

A: ドローンを活用した空の物流ネットワーク構想です。

リチウム電池を搭載した一般的なドローンの飛行可能距離は10km程度とされています。

防災拠点整備事業で、太陽光発電設備と蓄電池設備を整備した防災公園と避難所は、各々10km以内で結ばれ、町の主要地域をカバーするネットワークが構築されました。

これを活用し、ドローンが落下したときのリスクが低い、町内を貫流する江の川とその支流を飛行ルートとし、災害時の救援物資輸送の拠点・中継基地として活用が可能となりました。

また、美郷町のような中山間地域は近い将来、少子高齢化・過疎化による担い手不足から、宅配便等の物流の確保が大きな課題となると考えられます。町が整備したこの「空のルート」を運輸事業者等が活用し、サービスが展開されれば課題の解決につながると期待されます。



情報・未来技術戦略課 漆谷暢志 主任

Q: 「空の駅構想」でかかる費用はどれくらい？

A: 現在の実証実験では町の金銭的負担はほぼありません。

町は課題解決のために、昨年度から実証実験を行っています。こうした先進的な取り組みに対して、100%の補助金が環境省から交付されています。

Q: ドローンを使って今後、どんなことができる？

A: 様々な分野での活用が見込めます。

農業での農薬散布、林業での苗木の運搬、また、インフラ施設の点検、災害状況の確認など幅広い分野で活用が期待されます。



「防災拠点整備事業」と「空の駅構想」

取材を行う前、「何となく似ているなあ」と思っていた2つの事業でしたが、実際に聞いてみると全く違うものでした。それでも、それぞれ組み合わせることで災害に強く不便の少ない町づくりにつながっていると実感しました。

